

現在、メトロポリタン歌劇場日本公演《ワルキューレ》に出演中のネーフ。彼女のリクエストの通り、食事をしながらのインタビューとなった。彼女は業食主義者だという



イヴォンヌ・ネーフ

Yvonne Naef

★メソソ프라

現在、メトロ日本公演 《ワルキューレ》にフリッカ役で出演！

現在、米中のメトロポリタン歌劇場でフリッカを歌うイヴォンヌ・ネーフが、ワグナーの合間に、チューリヒ歌劇場でなんとテスビーナ役のデビューを果たした。

「97年にバイロイトでレヴァインと知り合い、01年のメトロ日本公演がオケとの初共演でした。その後02年にはメトロにフリッカ役でデビューしたのです。この役は93〜95年までヴィースバーデンの歌劇場にいた時、初めて歌いましたが、ヴェルディを優先させたかったので、ワグナーばかりのオフアーが来ることを恐れ、しばらく歌わずにいました。この役はやり過ぎないようにしなければいけません。女神という自覚を忘れずに、戦う時も、ジャガーではなく、ライオンのように。日本では、今までの解釈とは違った独特のフリッカをお見せできると思います。彼女は過去を見つめ、夫は未来を見つめ

る。そして、自分が勝つと彼を失うことに気付きながら、一歩一歩進んでいく。例えば最後、彼の肩に手を置く時、「ほら、これで貴方を捕らえた」と勝ち誇るのではなく、そっと「さようなら」を言うように手を添え、それから気持ちを入れ替えて勝利を宣言するのです。

デビューは《チエネレントラ》でしたが、3年目にはもうフリッカを歌っていたので、リリック・メソとして歌っていた時期がとても短いのをいつも残念に思っています。モーツァルトには常に戻るよう意識しているので、今回テスビーナの話があった時は、何も考えず飛びつきました。実際、稽古では一瞬不安になりましたが、私はその役が好きになると、時間はかかっても、体の中からその役に合う声が自然に出て来るので、今回もうまくいきました。

現在一番好きな役はアムネリスですが、将来はイゾルデ、メデア、アルチェステ、ブリュンヒルデに挑戦したいです。イゾルデはすでに日本からオフアーが来ているので、又将来も日本の皆さんとお会いできるのを楽しみにしています」

取材・文中 東生